

感染症発生動向調査委員会報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報(警報発令基準値: 定点あたり 30.00)が発令されました。
- 感染性胃腸炎が再び増加しています。
- 麻しんの海外での感染事例が報告されました。

全数把握疾患 1月期に報告された全数把握疾患

| | | | |
|---------|----|-----------------------|-----|
| 細菌性赤痢 | 1件 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 1件 |
| E型肝炎 | 1件 | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む) | 1件 |
| デング熱 | 1件 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 1件 |
| レジオネラ症 | 5件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 11件 |
| レプトスピラ症 | 1件 | 風しん | 3件 |
| アメーバ赤痢 | 2件 | 麻しん | 2件 |
| 急性脳炎 | 2件 | | |

- ＜細菌性赤痢＞ *Shigella flexneri* (B群)の報告が1件ありました。国内での感染が推定されています。
- ＜E型肝炎＞50歳代の報告が1件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。推定感染地域が国内とされている症例では、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。E型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では、17-33%と高く、注意が必要です。
- ＜デング熱＞1件の報告がありました。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。
- ＜レジオネラ症＞肺炎型 4 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。感染原因等詳細は現在調査中です。
- ＜レプトスピラ症＞1件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での水系感染が推定されています。
- ＜アメーバ赤痢＞2件の報告があり、うち1件は腸管アメーバ症で渡航先(タイまたはハワイ)での経口感染、もう1件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- ＜急性脳炎＞2件の報告があり、1件は乳児で病原体は現在検索中です。もう1件は幼児でAH1pdm09が検出されています。
- ＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞90歳代男性の報告が1件ありました。感染原因感染経路不明です
- ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者1件の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- ＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞50歳代男性1件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型はf型でした。
- ＜侵襲性肺炎球菌感染症＞11件の報告がありました。そのうち、乳児1件(ワクチン接種歴3回有り、血清型未検査)と80歳代女性(ワクチン接種歴1回、血清型1型)以外はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。ワクチン接種歴の無い症例の年代と血清型は、80歳代1名(血清型未検査)、70歳代3名(血清型7型、15型、35型)、60歳代2名(血清型19型、24型)、40歳代1名(血清型19型)、30歳代2名(血清型1型、35型)でした。
- ＜風しん＞3件の30～40歳代男性の報告があり、いずれもワクチン接種歴が確認できませんでした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。
- ◆[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)
- ＜麻しん＞2件の報告がありました。どちらもワクチン接種歴は無く、うち1件は幼児で、海外(フィリピンセブ島)での感染が推定されています。ウイルスが検出されており、遺伝子型はB3でした。もう1件は乳児で、こちらもフィリピンでの感染が推定されており、現在PCR検査中です。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患 平成25年12月23日から平成26年1月26日まで
 (平成25年第52週から平成26年第4週まで。ただし、性感染症については平成25年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、
 標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

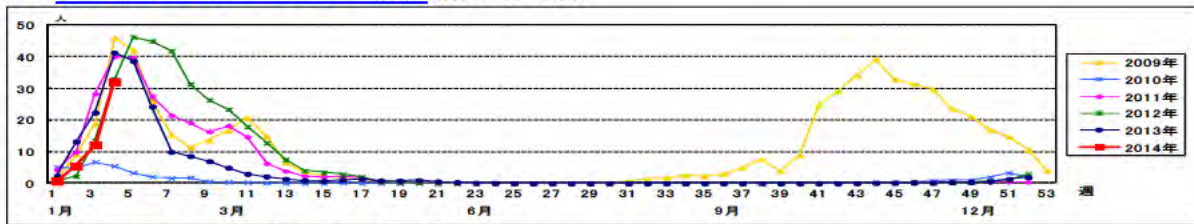
| | |
|------|---------------|
| 第52週 | 12月23日～12月29日 |
| 第1週 | 12月30日～1月5日 |
| 第2週 | 1月6日～1月12日 |
| 第3週 | 1月13日～1月19日 |
| 第4週 | 1月20日～1月26日 |

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、
 眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4
 か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定
 点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告
 されます。

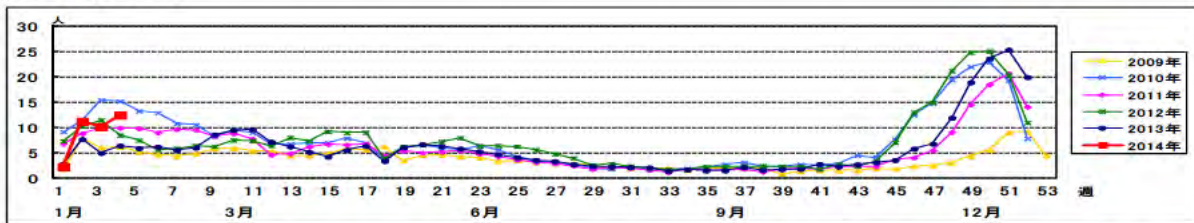
<インフルエンザ>第4週は市全体で定点あたり32.06と、前週の12.15から急増しました。迅速キットの結果では、第4週はA型57.8%、B型41.9%、A型B型ともに陽性0.3%となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果はAH1pdm09型20件(40.0%)、AH3亜型10件(20.0%)、B型(Victoria系統)10件(20.0%)、B型(山形系統)10件(20.0%)となっています。今後、さらに流行が拡大することが予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)

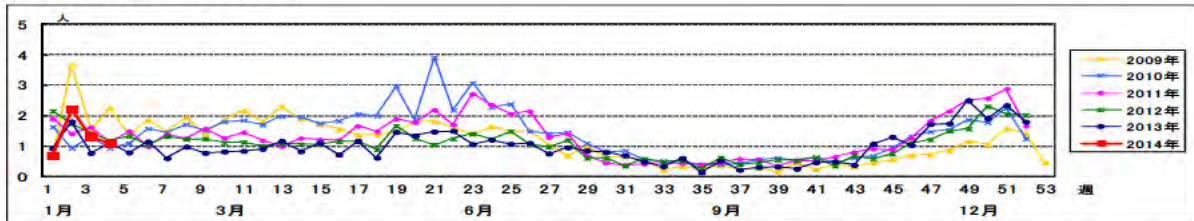


◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

<感染性胃腸炎>今シーズンは昨年第51週に定点あたり25.38と流行のピークを迎えた後、減少傾向にありましたが、第3週10.22、第4週12.44とやや増加傾向にあります。特に、神奈川区24.40、港南区20.40では警報レベル(警報発令基準値:定点あたり20.00以上)を上回っています。また、施設での集団感染や食中毒事例も依然として報告されており、注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。



<水痘>市全体で第4週1.10と落ち着いていますが、中区5.00で注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)を上回っています。



<性感染症>12月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が22件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第4週に2件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症3件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件(鼻咽頭ぬぐい液44件、ふん便1件)、内科定点21件(鼻咽頭ぬぐい液20件、ふん便1件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点9件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液4件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ26人、咽頭炎12人、気管支炎4人、胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑各1人、内科定点はインフルエンザ17人、咽頭炎3人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ3人、脳炎2人、インフルエンザ脳症、無菌性髄膜炎各1人でした。

2月7日現在、小児科定点のインフルエンザ患者25人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型(10人)、AH3型(3人)、B型山形系統(6人)、B型Victoria系統(5人)、AH1pdm09型とB型Victoria系統の重複(1人)、咽頭炎患者2人からB型山形系統、内科定点のインフルエンザ患者13人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型(7人)、AH3型(2人)、B型山形系統(3人)、B型Victoria系統(1人)、咽頭炎患者1人からヘルペスウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の咽頭炎患者と気管支炎患者各2人からRSウイルス、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型、咽頭炎患者1人からライノウイルス、気管支炎1人からパラインフルエンザウイルス1型、内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、胃腸炎患者1人からノロウイルスG2型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から28件、定点以外の医療機関等からは5件あり、赤痢菌(*S.flexneri*)、サルモネラが24件でした。

その他の感染症は小児科から4件、基幹定点から1件、その他が25件でした。
(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(1月)

感染性胃腸炎

| 検査年月 定点の区別 | 1月 | | | 2014年1月 | | |
|---------------|-----|----|------|---------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件数 | 0 | 28 | 5 | 0 | 28 | 5 |
| 菌種名 | | | | | | |
| 赤痢菌 | | | 1 | | | 1 |
| サルモネラ | | 24 | | | 24 | |
| 不検出 | 0 | 4 | 4 | 0 | 4 | 4 |

その他の感染症

| 検査年月 定点の区別 | 1月 | | | 2014年1月 | | |
|----------------|-----|----|------|---------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件数 | 4 | 1 | 25 | 4 | 1 | 25 |
| 菌種名 | | | | | | |
| A群溶血性レンサ球菌(T6) | 3 | | | 3 | | |
| G群溶血性レンサ球菌 | | | 1 | | | 1 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | | 1 | | | 1 | |
| インフルエンザ菌 | | | 1 | | | 1 |
| 肺炎球菌 | 1 | | 22 | 1 | | 22 |
| その他 | | | 1 | | | 1 |
| 不検出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】